

海域の概要

本港は、東北地方最南部に位置する港で、太平洋に面しています。江戸時代から栄えている本港は、南東北の物流拠点港として、重要な役割を担っています。



Specification

諸元

湾口幅：1 km

面積：3.97 km²

湾内最大水深：20 m

湾口最大水深：20 m

閉鎖度指標：1.99

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

福島県小名浜港三崎防波堤、同防波堤先端と三崎波除堤先端を結ぶ線、三崎波除堤、第1西防波堤、第2西防波堤の延長線と第1西防波堤との交点と第2西防波堤東端を結ぶ線、第2西防波堤、大剣防波堤の延長線と第2西防波堤との交点と大剣防波堤先端を結ぶ線、大剣防波堤及び陸岸により囲まれた海域。

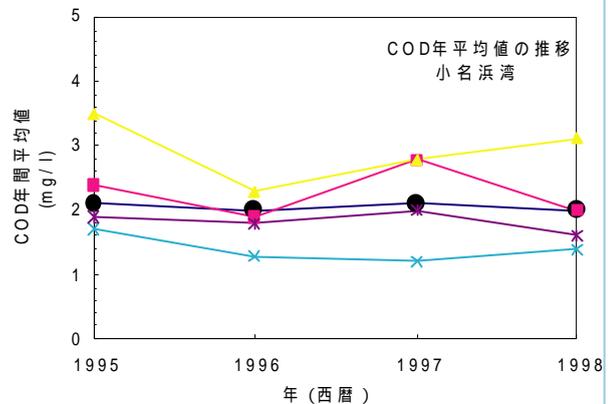


環境

小名浜港は、福島県最南部、太平洋に面する港湾であり、臨海工業地帯が形成されており、重化学工業関係の工場が多く林立しています。

そのため、水質は良好とはいえず、COD 年平均値の推移をみると、2mg/l を越える地点が多くなっています。

夏季には、沖合で発生した海霧が夜半から早朝にかけて来襲します。



自然

小名浜港の岸壁は、どこも釣り人が絶えず、マコガレイやクロダイ等の釣り場として人気があります。

小名浜港周辺は夏井川・鮫川の下流一帯から発達した砂浜からなる海岸平野を形成しています。

周辺地域の植生はヤブツバキ、トベラなどの暖地性の植物が分布し、いわき海岸低地でスダジイの林がみられ、マルバシャリンバイやコシダの自生地は天然記念物に指定されています。



小名浜港

文化歴史

小名浜港は、太平洋に面する福島県いわき市に位置し、1747年に幕府の代官所が置かれ、磐城各藩の納付米を海路江戸に積み出したことにより港の基礎が置かれました。明治以降は石炭需要の増加にともない、常磐炭鉱から産出する石炭を京浜方面に輸送する基地の役割を果たしました。終戦後は、小名浜周辺に臨海工業地域が形成されていくにつれ、国際貿易港として拡大してきました。

産業

小名浜港は、サンマ類、イワシ類、サバ類の水揚げが多い沖合・遠洋漁業基地です。また、重要港湾にも指定されており、鉱産品（石炭、石灰岩、非金属鉱物）の輸入、化学工業品（廃棄物、重油）の移入と鉱産品（非金属鉱物、窯業品、砂利、石材）の移出が盛んに行われています。

また、釣りの他、近くにはお魚センター・マリントワー・三崎公園や平成12年度には水族館も開館し、観光スポットとしての整備も進んでいます。